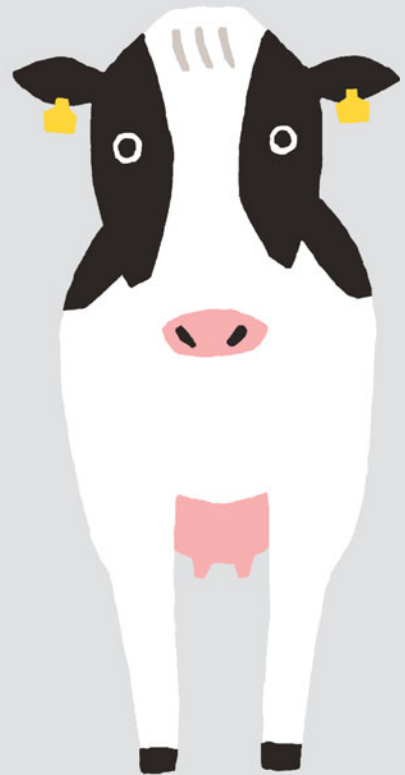


全国の酪農乳業関係者、 一人ひとりの力が必要です。

大切なお願い

新型コロナウイルスの影響が続く中、牛乳乳製品の需要はまだ回復していません。このままでは、牛乳消費が落ち込む年末年始や春休みの学乳休止期に、全国の乳製品工場の処理能力を超える加工処理生乳の発生が危惧されます。大切な生乳生産基盤を維持するため、酪農乳業関係者一人ひとりの行動が必要です。



処理不可能乳を発生させてはいけません！

年末年始に想定される処理不可能乳は「約5,000トン※」です。

- 生産者の生産意欲の減退と、これまで業界一体となって強化してきた生乳生産基盤を損なう減産に直結する恐れ。
- 減産となると、コロナ後の需要回復に比べられなくなるとともに、夏場の需要期を中心に生乳の不足基調がさらに強まる恐れ。
- 牛乳乳製品価格への影響や食品廃棄ととらえられ、業界のイメージ低下につながる恐れ。

※2021年10月1日公表「Jミルク需給見通し」からの推計値

全ての皆さまへ

まずは年末年始、毎日牛乳買いに行こう！



#1日1L※

酪農家の皆さまへ

- 不要期の一時的な生乳出荷抑制(12月下旬~1月上旬)

早期(適正)乾乳・治療や出荷予定牛の早期(繰上)出荷、全乳哺育や早期販売など、酪農経営や乳牛にダメージを与えない

乳業メーカーの皆さまへ

- 製品における生乳使用率の引き上げ
- 乳製品工場のフル稼働
- 積極的な販促活動

指定団体および

乳業メーカーの皆さまへ

両者が連携し、各乳業工場やクーラーステーションにおける貯乳能力のフル活用

※業界関係者自らが取り組む「#1日1L」運動の詳細は、近日中に公開します。



みんなでこの難局を乗り越えよう

Jミルクも皆さまと共に行動します

一時的な生乳出荷抑制への取り組みを行う生産者への支援と、関係団体・乳業者が実施する消費促進への取り組み支援をはじめ、Jミルクでも業界が一体となって取り組めるための施策を推進します。

詳細はこちら
(緊急説明会の
動画あり)

